



14 ◇ 古文 (1)



古文とは、わが国の古い時代の文章のことであり、文語体で書き表されている。したがって、まず歴史のかなづかいのきまりなど、古文の特徴を理解することが学習の基本となる。

☆歴史のかなづかいの原則

- (1) 現代では用いないかなを用いるもの
 - ・ゐ↓い (例) ゐる↓いいる
 - ・ゑ↓え (例) こゑ↓こえ (声)
- (2) 現代とは異なる字を用いるもの
 - ・を↓お (例) をとこ↓おとこ (男)
 - ・ぢ↓じ (例) ふぢ↓ふじ (藤)
 - ・づ↓ず (例) みづ↓みず (水)
- (3) 現代の発音とは一致しない字を用いるもの
 - ・語頭以外の「は行」↓「わ行」 (例) かは↓かわ (川)
 - ・思ひ↓思い 言ふ↓言う いへ↓いえ (家) なほ↓なお
 - ・くわ (ぐわ) ↓か (が) (例) くわし↓かし (菓子)
 - ・む↓ん (例) やむごとなし↓やんごとなし
 - ・その他 てふてふ↓ちようちよう (蝶々)
 - やうす↓ようす (様子)

☆古語の意味

古語の中には、現代では使われていないものや、現代語と同じ形でも意味が異なるものなどがある。

- (1) 現代語にはないもの
 - ・いと⇕非常に、本當に

☆古典常識

- (1) 月の異名
 - ・心うし⇕つらい、いやだ、残念だ
 - ・ゆかし⇕知りたい、見たい、聞きたい
 - ・つきづきし⇕ふさわしい
 - ・現代語と意味が異なるもの
 - ・あはれなり⇕しみじみとした趣がある
 - ・あやし⇕不思議だ、粗末だ、卑しい
 - ・うつくし⇕かわいらしい
 - ・をかし⇕趣がある、おもしろい、美しい
- (2) 時刻の表し方
 - ・古典では、新月の日を各月の一日とする旧暦が使用される。
 - ・睦月⇕1月、如月⇕2月、弥生⇕3月、卯月⇕4月、
 - ・皐月⇕5月、水無月⇕6月、文月⇕7月、葉月⇕8月、
 - ・長月⇕9月、神無月⇕10月、霜月⇕11月、師走⇕12月
 - ・古典では、二時間を単位とし、十二支をあてて時を表す。
 - ・子の刻 (午前0時)、丑の刻 (午前2時)、寅の刻 (午前4時)、
 - ・卯の刻 (午前6時)、辰の刻 (午前8時)、巳の刻 (午前10時)、
 - ・午の刻 (午後0時)、未の刻 (午後2時)、申の刻 (午後4時)、
 - ・酉の刻 (午後6時)、戌の刻 (午後8時)、亥の刻 (午後10時)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昔、延喜の御門御時、五条の天神のあたりに、大なる柿の木の、
 実ならぬあり。その木のうへに、**①** 弘あらはれておはします。京中
 の人、**②** ござりて参りけり。馬・車もたてあへず、人もせきあへず、
 拜みののしる。
③ かくする程に、五六日あるに、右大臣殿、心得ずおぼし給ける
 あひだ、「まことの仏の、世の末に出給べきにあらず、我行て、心
 みる」とおぼして、日の装束うるはしくして、**④** 檳榔の車に乗て、
 御後前おほく具して、集まりつどひたる者ども、のけさせて、車
⑤ かけはづして、**⑥** 榻をたてて、木ずゑを目もたたかず、あからめもせ
 ずして、まもりて、一時斗おはするに、此仏、しばしこそ、花も
 降らせ、光をもはなち給けれ、あまりにあまりにまもられて、し
 わびて、大なるくそとびの羽折れたる、土に落ちて、まどひふた
 めくを、童どもよりて、打ち殺してけり。大臣は、「さればこそ」
 とて、**⑦** 婦給ぬ。

- さて、時の人、此大臣をいみじく、かしこき人にておはします
 とぞ、ののしりける。
- ※1 ござりて 〓 連れ立って。 ※2 たてあへず 〓 止めておけず。
 - ※3 せきあへず 〓 せき止められず。 ※4 ののしる 〓 騒ぐ。
 - ※5 日の装束うるはしくして 〓 きちんとした服装で。
 - ※6 檳榔の車 〓 牛車の一種。 ※7 具して 〓 連れて。
 - ※8 榻 〓 牛車を牛からははずすときに支える台。
 - ※9 あからめ 〓 よそ見。 ※10 しわびて 〓 どうしようもなくなつて。
 - ※11 くそとび 〓 タカ科の鳥。ノスリ。
 - ※12 ふためく 〓 ばたばたする。

問一 〈かなづかい〉 線①～⑥の語の読み方を現代かなづか
 いのひらがなで書きなさい。

①	②	③	④	⑤	⑥
_____	_____	_____	_____	_____	_____

問二 〈現代語訳〉 線①「まもりて」の現代語訳として最も
 適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 保護して。 イ じつと見て。
- ウ 攻撃して。 エ 無視して。

問三 〈現代語訳〉 線②「いみじく、かしこき人」の現代語
 訳として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えな
 さい。

- ア 大変な、高貴な人。
- イ ひどく、恐ろしい人。
- ウ えらく、ありがたい人。
- エ すばらしく、利口な人。

問四 〈内容理解〉 柿の木の上の仏の正体は何でしたか。文中か
 ら十三字で書き抜きなさい。

2 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 草の花は撫子。唐のはさら也、大和のもいとめでたし。女郎花。桔梗。朝貞。刈萱。菊。壺重。

竜胆は、えださしなどもむつかしけれど、こと花どもの、みな霜がれたるに、いとはなやかなる色あひにてさし出でたる、いとをかし。又、わざととりたてて人めかすべくもあらぬさまなれど、かまつかの花、らうたげ也。名もうたてあなる。雁の来る花とぞ文字には書きたる。かにひの花、色はこからねど藤の花といとよく似て、春秋と咲がをかしき也。

(清少納言『枕草子』)

〔現代語訳〕

草の花はなでしこ(がよい)。唐のなでしこはいうまでもないが、大和なでしこも、たいそうすばらしい。女郎花。桔梗。朝貞。刈萱。菊。壺重(もよい)。

竜胆は枝ぶりなどもむさくるしく、おもしろくないけれども、ほかの秋草の花がみんな霜枯れている頃に、たいそうきわだった美しい色合いですと咲きだしているのは、ひどく趣深い。また、特にとりたてて一人前の花としてあつかえるものでもないけれど、かまつかの花はかわいらしい。(もともと)名前はよくないようだが、漢字では、雁の来る花と書いている。かにいの花□、色は濃くないが、藤の花ととてもよく似ていて、春と秋に咲くのがおもしろい。

問一 〈かなづかい〉 線a「女郎花」、b「らうたげ也」の読み方を現代かなづかいのひらがなで書きなさい。

a) _____
b) _____

問二 〈文脈把握〉 線①「草の花は撫子。」の一文に省略されている述語を、古文中から五字以内で書き抜きなさい。

問三 〈助詞〉 線②の「の」とはたらきのちがうものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日_のあたる場所。 イ これは私_の本だ。
- ウ 雪_の降る街。 エ これは私_の読んだ本だ。

問四 〈助詞〉 線③「かにひの花」のあとに省略されている助詞を、ひらがな一字で書きなさい。

問五 〈内容理解〉 この文章で、筆者がどんな観点から草花を取り上げ、どのように述べているかを説明した次の文の□にあてはまる言葉を、(1)は古文中から書き抜き、(2)・(3)は対義語となる言葉を漢字二字で考えてそれぞれ書きなさい。

「(1) _____ と感じられる草花を取り上げて、それぞれの(2) _____ と(3) _____ をまじえて述べている。」

◎ 言語・文法 慣用句 (2)



1 次の各組の慣用句の□に共通してあてはまる、体の一部を表す漢字一字を書きなさい。

- | | | | |
|-----|-----------|-----|---------|
| (1) | □ が棒になる | (2) | □ に余る |
| □ | が洗う | □ | に付く |
| □ | が出る | □ | が高い |
| (3) | □ をすっぽくする | (4) | □ をそろえる |
| □ | が固い | □ | を傾ける |
| □ | を利く | □ | が早い |

2 次の各組から——線の慣用句の使い方の方の正しいものを一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | |
|-----|----------------------------|
| (1) | ア 君と僕はいつでも高が知れている。 |
| イ | クラスで一番といっても、高が知れている。 |
| ウ | 今度の相手は全国に高が知れている強豪だ。 |
| (2) | ア 今日は全員虫がいいので順調に勝ち進められた。 |
| イ | あなたにお会いできるとは今日は虫がいい。 |
| ウ | 自分だけ逃げようなんて虫のいい考えだね。 |
| ア | 母の無事を知り、胸をなで下ろした。 |
| (3) | イ 年がら年中胸をなで下ろすような忙しさだ。 |
| ウ | あまりの寒さについて胸をなで下ろした。 |
| ア | 根も葉もない <u>うわさ</u> に惑わされるな。 |
| (4) | イ そんなことを言つては根も葉もないだろう。 |
| ウ | 根も葉もない、元気な子供たちが遊んでいる。 |

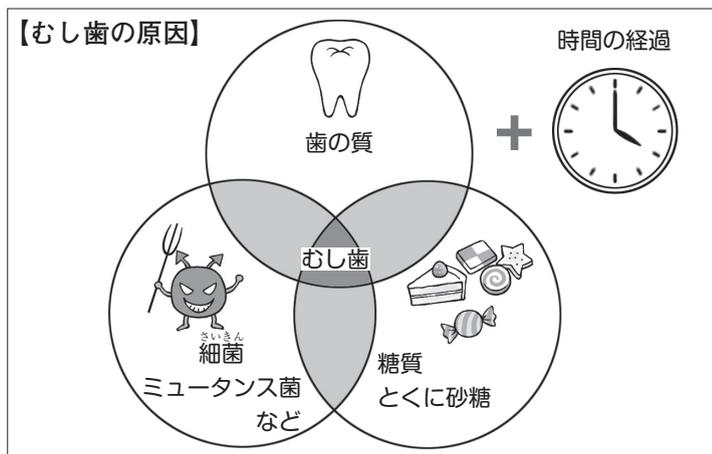
漢字の学習

- | | | | |
|------|-----------------------------|------|-------------|
| (1) | 故人を追悼する。 | (11) | フタンが大きい。 |
| (2) | かなりいい雰囲気だ。 | (12) | 陸上部にシヨゾクする。 |
| (3) | 細菌の繁殖を防ぐ。 | (13) | 第二チヨウシヤの窓口。 |
| (4) | 栈橋で待ち合わせる。 | (14) | ギャクムきに並べる。 |
| (5) | 図書を閲覧する。 | (15) | 母はシンパイシヨウだ。 |
| (6) | 三つに分裂した。 | (16) | 容器をミツペイする。 |
| (7) | 極めて <u>きわ</u> まな結論だ。 | (17) | ゼツタイ負けないぞ。 |
| (8) | いたずら者を懲らしめる。 | (18) | 部長の指示にシタガウ。 |
| (9) | 志を貫き通す。 | (19) | 三人の手をへて届く。 |
| (10) | 柔らかな髪 <small>かみ</small> の毛。 | (20) | 仏前におソナえをする。 |



思考と表現 (3)

1 X 中学校の保健委員の古川さんたちは、複数の資料を参考にしながら、「保健新聞」に掲載する歯の健康についての記事を書いています。次は、古川さんたちが集めた【資料1】【資料2】【資料3】と、それをもとに作っている【保健新聞】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。



【資料1】

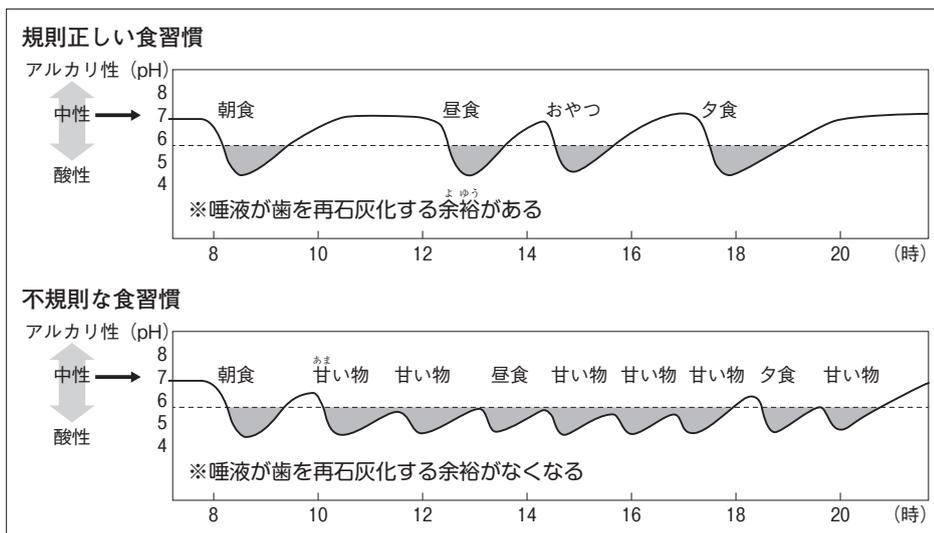
【むし歯ができる仕組み】

むし歯は次のような仕組みで発生します。

- ① 糖質を含む食べ物を食べる。
- ② ミュータンス菌などの細菌が糖質から歯垢（プラーク）という歯の汚れをつくる。
- ③ 口の中が酸性に傾き、もろくなる。
- ④ 歯が溶け始め、むし歯に進行する。

通常は、③の段階で唾液の働きによって口の中が酸性から中性へ戻り、歯が元の状態に戻ります。この働きを再石灰化といいます。しかし、口の中の酸性度が一定の濃度を超えてしまうと、中性の状態へ戻りにくくなります。そして、④の状態へと進んでしまうのです。

【資料2】



【資料3】

